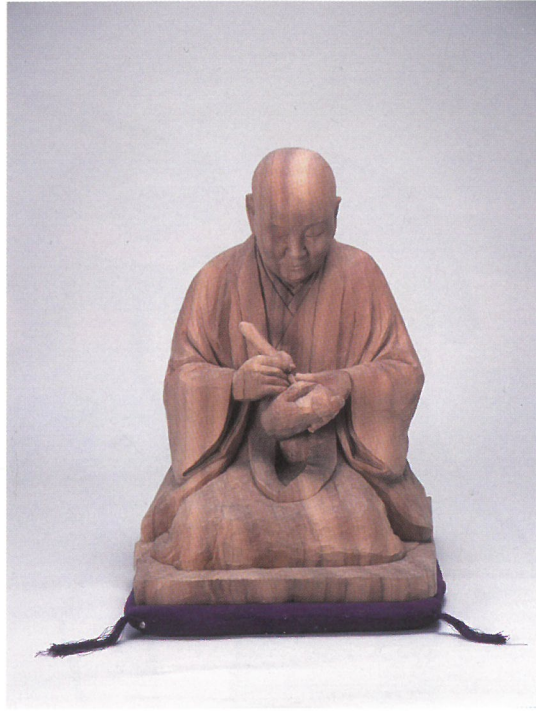


松久朋琳

「尼仏師」



1978年の制作。出品された展覧会では、周囲の人にじろじろと見比べられて恥ずかしかつたと寂聴は語っている。

朋琳先生は昨年から、私をモデルにして尼さんが仏像を彫っている姿を彫ってみたいとおっしゃられた：（中略）：老先生は月に一、二度寂庵に見えられ、私に彫刻を教えて下さり、のんびりお酒をのんで帰られる。その時、お互い彫りながらあれこれ世間話をするのがとても嬉しい。老先生も忙中閑ありと

いう表情でなごやかに話される。
「お互いこれではあんまり忙しすぎませ、少し時間をつくらんとあきませんなあ」

そんなことをいいながらも、のみを動かしつつ、
「さあ、これでもう寂聴さんが永遠に仏さん彫っていることになりましたなあ」と、尼仏師を見つめて満足そうに笑われるのであった。

「尼仏師」『瀬戸内晴美による瀬戸内晴美』



松久朋琳と寂聴

松久朋琳（まつひさ・ほうりん） 1901-1987

4歳で京仏師・松久家の養子となり、10歳の頃から仏像制作を始めた。京仏師の第一人者として知られ、代表作に大阪四天王寺仁王像、比叡山延暦寺大日如来像、弥勒菩薩像、十一面観音像などがある。1962年には、京都仏像彫刻研究所を設立し、後進の指導にも当たった。